

◎ 原監督・古田コーチに感謝

はばだけ！
JTサンダーズ広島



久原 大輝

3日、黒鷲旗（全日本男女選抜大会）の準々決勝で東レに敗れ、今季の公式戦は全て終了。それと同時に原秀治監督、古田博幸コーチのラストマッチとなった。

原監督は就任から2年間、選手の自主性を重んじる指導法でチームを改革した。若手の育成に大きく貢献し、坂下純也、金子聖輝

両選手の活躍ぶりは、原監督の手腕だと私は考えてい

る。選手とコーチ時代を含め、長年、JTサンダーズ広島のために戦っていただけ、感謝しかない。

古田コーチは多くのチームの指導に携わり、そこから得た豊富な知識や基本の大切さを説いていただいた。その中でも印象に残っている言葉がある。「当たり前前を当たり前にする」。簡単そうに聞こえるが、この言葉通りにプレーするということは非常に難しい。それができるために練習では、一球一球魂を込めて選手と向き合ってくれた。

ここ2年、なかなか成績を残すことができず、悔しい思いをしたが、原監督と古田コーチが残してくれたものをしっかりと繼承し、前へ進むことが、最大の恩返しになるだろう。お二人とも、本当にありがとうございました。

（JT広島マネジャー）



黒鷲旗で敗退後、あいさつする原監督（左）と古田コーチ